

# マルバマンサクの由来・語源

横山 健三

## I. 語源説の紹介

1. マンサクは先ず咲くで、他の樹木に先だって、真っ先に花を咲かせるからという説『莖筵小韻』(テツエンショウトク・1808年)のフクジュソウの項に『アヲモミも加州にてマンサクと云、皆早春先開之義なり』とあり、『増訂草木図説』(1907年)に『マンサクノ名ハマツサクノ意ナラン』とある。

参考：フクジュソウもマンサクと呼ぶ〔出典：日本植物方言集、三陸植物誌〕

2. マンサクは豊作・満作と同じく、花が枝一杯に咲くからという説

『牧野日本植物図鑑』(1940年)に『和名ハ満作ノ意ニシテ満作ハ豊作ト同ジク穀物ノ豊穰ヲ云フ、此樹花盛ニニ発ラキテ枝ニ満ツレバ斯克云フ』とあり、『牧野新日本植物図鑑』(1961年)に『満作の意味で、満作は豊作と同様、穀物が豊かにみることといい、この木が枝いっぱい花を咲かせるので、このようにいう。』とある。『原色牧野植物図鑑』(1982年)や『原色樹木大図鑑』(1985年)に同じように説明する。『日本語大辞典』(1975年)や『世界大百科事典』(1972年)も、この説を紹介している。

参考：「満作」の文字の出典 ①上杉家文書〔建久7年10月(1196年)〕；②鶴岡事書日記〔応永元年(1394年)〕；③運歩色葉集(1548年)；④易林本節用集(1597年)〔次説にも共通〕。これらの文献の満作は豊作の意味に使用しており、直接、植物のマンサクとは関係ない。が、後世に植物名の解釈に転用した。

3. マンサクは豊年満作で、この花が盛んに開花すると豊作になるという説

『資源植物事典』(1949年)に『和名は満作の意味で、この木が早春盛んに開花すれば豊年満作の前兆である故という』とある。作物の豊作満作は、この花の多少による。満作・豊作か、不作かは、この本の花の多寡で判るといふ。

『日本俗信辞典』(1982年)に『マンサクの花が多く咲くと、豊作(山形・宮城・福島・群馬・新潟)、マンサクの花が少ない年(宮城)や咲かない年(山形)は凶作』とある。

4. マンサキ・満咲きで、どの枝にも花が満ちるからという説

『四季の花辞典』(1985年)に『この黄金色の花がどの枝にも豊かに満ちる〈満さき〉に由るとも』というところ。前説の2・3の説とは、少し違っている。

参考：満咲き、咲きは連用形名詞。マンサクは転訛と見る。

5. マンサクは万作・萬作で、枝に花が千も万も、沢山着けるからという説

『大言海』(1935年)・『広辞林』や『広辞苑』などの事典類は「万作・萬作」の漢字を使用する。

『秋葉山の植物』(1983年)に「他の花がまだ咲かないとき枝いっぱい花をつけているようすが『万作』という名にぴったりだからという説がある」と、紹介する。

参考：「万作・萬作」の文字は、新しいことば。植物名のマンサクを説明する為に作られた漢字、国字?と見る。

6. シイナバナの忌み言葉・嫌い避けることから、反対にマンサク(満作)とする説

『植物名の由来』(1980年)に「わたしはマンサクという名の植物は、古くはシイナとかシイナバナとかよばれていたものが、この忌詞を嫌ってその反対語の満作(マンサク)と改められたのではないかと考える。したがってマンサクという名は魚名のマンサクと同様に、実名敬避的な呼び名であると思う。そしてこのことは、植物名探索の一つの別の方向を暗示するものではないかと思う。」とある。

参考：シイナ、シイナバナ、シイバナの名前は、上記の本以外に見えない

7. マンサクは万作踊りからで、花卉の姿を踊っている人々と見たという説

『園芸大百科事典』(1980年)に「一方、このよれ曲がった花卉の姿を輪になって豊年踊りを踊っている人々になぞらえ〈万作〉としたという説がある。」とある。

参考：世界大百科事典のまんさくおどり 万作踊の項参照

## II. 私の語源

マンサクはなぜ・どうして、そう呼ぶのだろうか。

マンサクは卍字作花・卍作花の意味と推察する。

マンサクの花ピラ・花卉をじっくりと見ていていると思いがたることがある。マンサクの花は四弁で卍・卍字に似ているということである。マンサクの名前のマンは、これから来ていると推察する。

卍は漢字の字音でマン・バンである。日本語ではマンジと読む。卍の漢字一字もマンジであり、卍字もマンジと読む。又、万字・萬字の字も当てる。

卍の字は、仏教とともに、印度から中国経由で、我が国に伝来したものである。卍・卍字(記号)は、洋の東西をとわずに大昔からあり、これは太陽の光・光線を表象したもので、象徴(シンボル)とされている。

万字・萬字の記録は『往生要集』(985年)にある。(万字・萬字は卍と同じ意味)。卍のような形という表現は、『俳諧新選』(1773年)にあり、「杜若卍ほろりとひらけたり」(二・夏)とある。杜若はカキツバタであり、花の様子を詠んだ句である。つまり、マンサクのマンは卍・卍字からきているということである。マンサクの名称は記録的に新しい。(Ⅲ. マンサクの名称、No63 参照)

サクは、どうであろう。花は人工的であり、人造的である。これは作り花・造り花のようである。それ故に、サクは作の意味と解釈する。

花は卍形・卍型であり、卍字の作り、字形に似ているので、卍作花であると推察している。

卍・卍字は、参考資料のように沢山ある。

また、次の資料は、大変参考になる。水沢謙一氏の採集、越後の手秘唄(わらべ唄)にマンダクバナが出てくる。おれには説明はないが、マンサクと推察する。新潟県刈羽郡で、マンサクをマンザクラと呼んでいる。これは卍桜と解釈できる。新潟県内にマンサクの名称の故郷があるようだ。マンサクの故郷は、ここかと疑うに値する資料である。

“早春や 卍のように 花が咲き卍作花か 卍桜かな”

【参考資料】 卍のいろいろ・いろいろの卍 (12頁図)

(万字・萬字は同じ意)

1. 石持ち地抜き万字・石持ち地抜き卍
2. 五つ万字菱・五万字・五卍
3. 五つ割り万字・五つ割り卍
4. 五つ割り万字菱・五つ割り卍菱
5. 糸輪に捻じ卍菱・糸輪に捻じ万字菱
6. 糸輪に卍・糸輪に豆万字
7. 角立万字・角立て卍

8. 陰万字・陰左卍
  9. 陰卍菱・陰万字菱
  10. 陰万字丸・陰卍丸
  11. 変わり丸に五つ割り卍・変わり丸に五つ割り万字
  12. 変わり万字・変わり卍
  13. 剣先左万字・剣先卍
  14. 隅入り角に万字・隅入り角の卍
  15. 隅立て五つ割り万字・隅立て五つ割り卍
  16. 隅立て紗稜形万字・隅立て紗稜形卍
  17. 隅立て右万字・隅立て右卍
  18. 隅立て右万字崩し・隅立て右卍崩し・万字崩
  19. 隅立て三つ繋ぎ万字・隅立て三つ繋ぎ卍
  20. 捻じ万字丸・捻じ卍丸・捻じ万字丸
  21. 左万字・左卍
  22. 細六角に豆万字・細六角に豆卍
  23. 丸に五つ割り卍
  24. 丸に隅立て万字・丸に隅立て左卍
  25. 丸に隅立て右卍
  26. 丸に左卍菱
  27. 丸に万字・蜂須賀卍
  28. 丸に右まんじ・丸に右卍・丸に右万字
  29. 丸まんじ・丸万字・丸卍
  30. 丸字卍・卍卍
  31. 万字菱・卍菱
  32. 万字菱崩し・卍菱崩し
  33. 万字丸・卍丸
  34. 右万字・右卍
  35. 三つ万字菱・三つ卍菱
  36. 三つ卍丸・三つ万字丸
  37. 四つ隅立て五つ割り万字・四つ隅立て五つ割り卍
  38. 四つ持ち合い万字・四つ持ち合い卍
- ※ 出典は省略する。十余の文献から集録したものである。

## Ⅲ. 新潟県におけるマンサクの名称・方言・別名

1. クロマンジャク 新潟(東蒲原) [倉田 1963]
2. シシハライ 新潟(佐渡・南魚沼・塩沢・西頸城) [倉田 1963]
3. シシハリ 新潟(佐渡) [倉田 1963]
4. シシハレー 新潟(佐渡) [倉田 1963]
5. シシハレエ 新潟(佐渡) [佐渡植物民俗誌 (1987)]
6. シシャライ 新潟(佐渡) [日本方言大辞典 (1989)]
7. シシワライ 新潟(東頸城) [松之山の植物]
8. シンハライ 新潟、長野 [春の百花譜]
9. ネソ 新潟、富山、石川、福井、岐阜 [倉田 1963]

卍のいろいろ・いろいろの卍

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
横万字丸	横万字	横万字	角立万字	丸に五卍	丸に五卍	五つ折り万字丸	五つ折り万字	五つ万字丸	右持ち地獄万字
横万字		横万字				五つ折り万字	五つ折り万字	五万字	右持ち地獄万字

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
横万字丸	横立て三つ折万字	横立て右万字丸	横立て卍	横立て卍	横立て五つ折り万字	横入り角に万字	剣先左万字	交わり万字	入り丸に五つ折り卍
横万字丸		横立て卍		横立て卍	横立て五つ折り卍	横入り角に卍	剣先卍	交わり卍	
横万字丸		万字丸							

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
万字世	丸まんじ	丸に右まんじ	丸に万字	丸に五卍	丸に五卍	丸に横立て万字	丸に五つ折り卍	四六角に立万字	左万字
	丸まんじ	丸に五卍	横万字			丸に横立て五卍			五卍
									五万字

38	37	36	35	34	33	32	31
回つ持ち合卍	回つ横立て五つ折り万字	三つ卍	三つ万字丸	右万字	万字丸	万字丸	万字丸
回つ持ち合卍				右万字	万字丸	万字丸	万字丸
				右万字	万字丸	万字丸	万字丸
				右万字			万字丸

- 10. ハシバミ 新潟(北蒲原) [農商務省山林局 編纂 1916]
- 11. マンサクバナ 新潟 [草木の話]
- 12. マンザクラ 新潟(刈羽) [倉田 1963]
- 13. マンシャク 新潟(岩船・北蒲原)、山形 [倉田 1963]

日本産のマンサクは細分されているが、ここでは一まとめ取り扱って記録した。

IV. マンサクと名乗る植物—マンサクの名前の植物のいろいろ—

- 1. キタコブシ [上原(1961)]
- 2. クロモジ [倉田(1963)] : 群馬(勢多)
- 3. ダンゴウバイ [倉田(1963)] : 群馬(利根)、福井(三方)、和歌山(伊都)
- 4. フクジュソウ [蓑笠小牘 1808] : 加賀、石川、江戸、東京、青森
- 5. ロウバイ [飯豊山 花の旅]  
1~4 は樹木、5 は草本  
これらの植物が、どうして、マンサクなのか、究明することも必要である。  
多数の方言・別名があるが、どういう由来・語源か、その解釈が望まれる。

III・IVに引用した文献

- 倉田 悟 1963 日本主要樹木名方言集
- 上原敬二 1961 樹木大図説
- 農商務省山林局編纂 1916 日本樹木名方言集

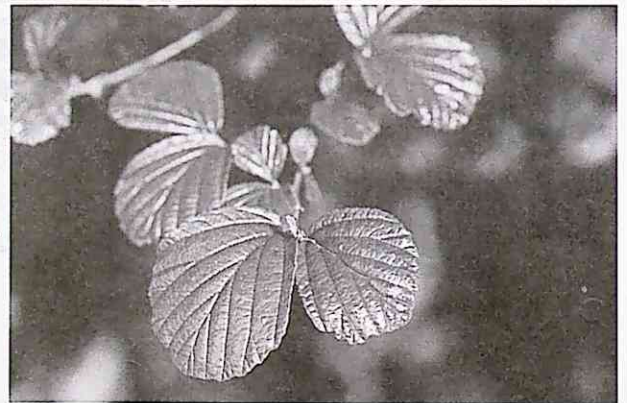
新潟県植物保護 26号:6-9(1999)

・オミナエシの語源・方言・名称史等の訂正  
(横山健三)

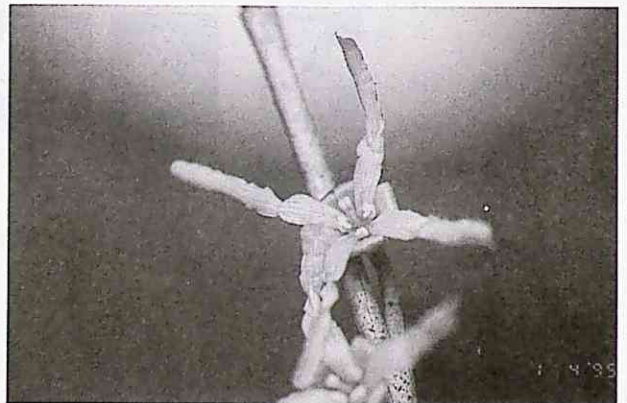
- 2. ヲミナヘシ(女尻為)の説の項  
「(ヲミナヘシ論)を「(オミナエシ論)全文を「ヲミナヘシ」とする。  
「にほうヲミナヘシ」を「にほふヲミナヘシ」
- 4. 語源説の紹介の項
  - 1) 「女へ氏」は「女へし」
  - 2) 「女植え市」は「女植えし」  
「ふへし」を「うへし」
  - 4) 「言う説」を「いう説」  
「似を皆」を「にをみな」
  - 5) 「(ヲンナヘシ)」を「(ヲミナヘシ)」  
「奈留」を「なる」
  - 7) 「点呼」を「転呼」  
「ろ」を「ら」



マルバマンサクの開花  
西蒲原郡岩室村間瀬 1993. 3. 18



マルバマンサクの展葉  
西蒲原郡弥彦村 1992. 5. 12



マルバマンサクの花  
西蒲原郡弥彦村黒滝城 1995. 3. 28